

令和元年度 新規研究課題の概要

No.	課題名	実施機関	期待される成果
1	【人口減少時代の農業を省力化で持続的な産業に】		府内の生産現場を省力化し、規模拡大による管理・監視労力を削減することで、労働時間当たりの所得を増加させ、農業の持続的な成長を可能にする
	P13-1 ICTを活用した豆類栽培における省力生産技術の確立 [要望]	農林センター (亀岡)	気象データを活用した開花日予測等により、エダマメの適期管理と適期収穫を実現し、生産者所得を増加 土壌水分データをモニタリングし、小豆の適正なかん水による収量増加で生産者所得を増加
	P13-2 洗浄機とファインバブル発生機等を活用したエビイモ貯蔵技術の開発 [要望]	農林センター (亀岡)	洗浄による殺菌効果で、貯蔵中の腐敗による歩留まり率を向上 長期貯蔵出荷技術の確立による所得向上
	P13-3 機械摘みてん茶における生葉データを活用した製茶工程の省力管理システムの開発	茶業研究所	生葉データに基づく自動化技術により、てん茶製造に係る労力を削減し、経営面積を拡大
	P13-4 装着型センサを用いた子牛疾病早期発見のためのモニタリング装置の開発 [要望]	畜産センター	体温と心拍をモニタリングし、子牛の疾病を早期発見し、発育停滞等を防止
2	【効率的かつ確実な対策でリスクに強い農林漁業を】		府内農林漁業におけるリスク対策を充実し、被害を抑制することで、リスク発生時の所得減少を最小限にし、足腰の強い生産現場を作る
	P14-1 流木発生危険度評価法及びハザードマップ作成技術の確立	森林技術センター	土層・土質と流木発生との関係を分析し、流木発生危険度判定表を作成 流木発生ハザードマップ作成方法を開発し、市町村単位でのマップ作成による住民の安全確保
	P14-2 果樹栽培における高温・強日射による果実障害軽減技術の確立	丹後農業研究所	ナシ園やブドウ園における日射量低減技術及び施設栽培のブドウに対するミスト冷却技術を開発し、生産者所得を確保
	P14-3 鶏IgY抗体による牛の皮膚からの細菌感染リスク低減技術の確立 [要望]	畜産センター	乳房炎原因菌を抑制することで、府内成牛頭数に占める乳房炎発生率を低減
	P14-4 系統育成及び身入り基準策定によるトリガイの品質向上・担保技術の確立 [要望]	海洋センター	身入り及び変形員の評価基準をマニュアル化し、ブランド評価を高める 高温耐性系統の作出により生残率を高め出荷量を増加
3	露地ネギ栽培におけるべと病を中心とした病害の予防防除技術の確立	農林センター (亀岡)	効果的な防除体系の確立により、べと病による減収を抑え、生産者所得を向上
4	伝統産業の振興に必要な広葉樹の品種選抜と増殖技術及び栽培管理技術の確立	森林技術センター	高品質・生産量向上を目指して、ウルシとハゼの優良品種を選抜 菌根菌を活用した増殖技術を開発し、健全な苗木づくりによる優良園を育成
5	熟果生産に適した伏見とうがらしF1品種の育成	生物資源 研究センター	実需ニーズが高い京都オリジナルの赤トウガラシ品種を育成し、安定生産による有利販売を実現